



1歳ごどもの発熱

庄原赤十字病院
小児科
多田 昌弘



なぜ1歳ごどもたちは
発熱するのか？

小児期は生まれてから今までに出会ったことのないウイルス・細菌などによる感染症を繰り返します。その際に、そのウイルスや細菌などの病原体を退治する過程で体は熱をつけます。これが「発熱」です。発熱していることは病原体と体が戦っている証拠です。

病原体の種類

病原体には大きく分けて「細菌」と「ウイルス」があります。細菌の特徴は、自分で数を増やしていくことができる点です。ウイルスは人や動物の細胞を借りて分身を作って増えていきます。

一般的に自分で増殖できる「細菌」の感染の方が症状が強くなります。

病原体ごとの治療法

「細菌」には抗生物質が効果的です。「ウイルス」には抗生物質は効きません。残念ながら現在いわゆる「風邪のウイルス」をやっつ

ける薬はほとんどありません。

「ウイルス」に対する治療法

現在、ウイルスに対する薬として使用されているものは、ヘルペスウイルス属に対してアシクロビルとインフルエンザに対するリン酸オセルタミビル(商品名タミフル)などごくわずかです。つまりそれ以外の「ウイルス」を直接やっつける薬はありません。それでは、「ウイルス」感染(普通の風邪のことです。)としてしまったときはどうすればいいのか…

対症療法



ほとんどの「ウイルス」には薬が効かないので自分の体が「ウイルス」をやっつける間サポートすることが大事になってきます。これを対症療法といえます。発熱に対する対症療法はクーリング(冷

やすこと)や解熱剤、脱水には水分補給、点滴などが対症療法の代表です。対症療法のなかで点滴などは病院で出来ますが、自宅できるところの方がたくさんあり、クーリング、水分補給などの対症療法は大事です。

発熱の対症療法

発熱した時の対症療法は、クーリングが真っ先に思い浮かぶと思いますが、自宅でクーリングする時にちよつとしたポイントがあります。

最初のポイントはタイミンクです。「発熱した↓冷やす」が正しい順番ではありません。

まず、典型的な発熱の経過(図1)をみて下さい。平熱から熱が上がる時期(A)と熱の高さが一定になる時期(B)があります。(A)の時期は病原体をやっつけるために体が熱をがんばってつくり出します。始めは、体の中心から温度を上げていくために手足の先は冷たくなります。この時期は、悪寒(おかん)といって熱が出ているのに寒くて震える状態に

なります。この震えるのも体が熱をしようとする動きです。

(A)の時期がある程度続くと、ほぼ一定の体温になって体の中心の熱が手足に拡がります。この(B)の時期になると、震えもあまり本人は熱さを感じません。

(A)の時期は熱が出ていても「温める」タイミンクで(B)の時期が冷やすタイミンクです。まめに体温を測ってタイミンクを見極めるか、手足を触って見極めるのが簡単な方法です。

次のポイントは、冷やす方法です。最近では、薬局などで冷却ジェルなど便利な商品が売られています。最近では、多少面倒ですが、氷だつたり保冷剤(クーキヤ)やアイスを買ったときについてくるものの方が効果的です。また、効果的に体温を下げるためには、太い動脈が通っていて体の表面に近い場所を冷やすことが大事です。具体的には、首の両側、脇の下の両側、内股の両側、おこしです。

医療機関受診のタイミンク

夜中でもいいので、すぐに医療機関へ受診していただきたいタイミンクがあります。生後3カ月未満の赤ちゃんが、38℃以上の発熱をしたときです。生後3カ月未満の赤ちゃんは、細菌に対する免疫力が弱く重症細菌感染症を起こす可能性が高いからです。一度熱を測って38℃を越えていたら、まず上着を1枚脱がせてください。

い。30分後くらいにもう一度測つてみて、38℃を越えているようなら受診してください。



他のタイミンクとしては

- 発熱が続いてぐったりしている。
 - 水分もとれず、おしっこがあまりでない。
 - 38℃以上の発熱が4日間は続いている。
 - よくわからない発疹ができた。
 - 頭を痛がり、吐き気がある様子。
 - なんだかずっとぐずぐずいって機嫌が悪いなどです。
- 以上は、症状が「発熱だけ」の時の医療機関へ受診するべきタイミンクです。他の症状がひどければタイミンクは変わります。

